

目次

開催にあたって

目次・凡例

口絵

生活世界の博物誌 [篠原徹]..... 1

展示解説

I 農作物をめぐって—自然と人々のくらし—..... 8

II 農家のくらし

(1) 米づくりの一年..... 11

(2) 農作物をめぐるまつり..... 13

III 小正月の周辺—冬のくらし—

(1) 小正月とは..... 16

(2) 農家の冬の日..... 19

IV 豊かな実りを祈る—モノヅクリを中心に—

(1) モノヅクリに使われる植物たち..... 22

(2) 製作の技と用具..... 25

(3) 祈ってつくった各地のモノヅクリ..... 28

展示資料一覧..... 42

協力者一覧..... 45

参考引用文献..... 45

凡例

◇この図録は、第38回特別展「豊かな実りを祈る—小正月の行事—」[平成8年9月21日(土)から11月4日(月)]の展示図録です。

◇資料名称の表記の場合、民俗語彙(現地呼称)に関してはカタカナ書きとし、必要に応じて()内に漢字仮名まじりで、また共通名称については漢字仮名まじりで表しました。

◇本図録に掲載した写真は展示資料のすべてではありません。

◇本書の内容は陳列の順序とは必ずしも一致しません。

◇掲載写真は当館担当学芸員の撮影によるものですが、一部は所蔵者及び協力者から提供を受けました。

◇出品協力者については巻末に芳名を記しました。

◇本特別展の企画・運営は当館職員の辻浩子が行い、当館の職員全員でこれを補助しました。

◇本図録の執筆は辻浩子が行い、国立歴史民俗博物館の篠原徹氏より玉稿を賜りました。

第38回特別展

“豊かな実りを祈る—小正月の行事—” 開催にあたって

米づくりが始まって2400年。人々は豊作^{ほうさく}を祈って、水不足^{みづふそく}や日照不足^{にっしょうふそく}のときには雨乞い^{あまごい}・日乞い^{ひごい}を行い、動物や害虫の被害がないように虫送りやトウカンヤ（十日夜）など様々な行事を今に伝えてきました。

豊作への祈りは、とくに「百姓^{ひやくしやう}の正月」「農の正月」といわれる小正月の行事、たとえばヌルデやクルミを素材にしたケーノハシ（粥の箸）・ケズリバナ（削り花）・アワボ（粟穂）・ヒエボ（稗穂）・ドウロクジン（道陸神）などのモノヅクリや、小豆などによる年占い・鳥追いなどでとらえることができます。

生活環境の変化が目まぐるしい現代においても、水不足の年には各地で雨乞いなどの祈願が多く行われています。このように、人々のくらしは自然から恩恵^{おんけい}を受けるだけでなく、常に畏れや敬いの気持ちをもちつづけることで成り立ってきたといえます。

今回の展示では、小正月を中心に姿を消しつつある行事の保存と、その記録に力を入れましたが、これを機会に植物などでつくられた祈りの造形を通して、自然と人とのかかわりを見直していただけることを希望します。

おわりに、本特別展の開催にあたり、御指導御協力をいただきました皆様に心より御礼申し上げます。

平成8年9月21日

長野市立博物館長 田中 邦雄